

まちあるきに着目した市街地観光に関する実態調査  
ー徳島市における観光ボランティアについてー

実査日：平成 26 年 10 月 25-27 日

報告者：財団法人都市化研究公室研究員岩間真二

## 1. はじめに

地域再生において、観光が一つのキーワードとして挙げられる。観光は、外部から人が訪れることによって、様々な消費等を喚起することによって地域経済を活性化するという、地域を訪れるそのものが、人な流れを作り活気づくりを行うという面も考えられる。

さて、地域の活性化という面で観光を考えたときに、旧来では目玉となる施設や地域資源に資源を集中投下して、それをいわゆる観光の目玉として人を集めるということが行われてきていたが、近年、し好の多様化や、インターネット等による情報収集が容易化すると、ある意味一点突破的な観光では、他地域で同様な施設等ができる観光資源としての魅力の維持できる期間が短くなりかねない。

こういった中で、歴史的建造物や地域の歴史といった歴史的資源はある意味、普遍的であり、他地域で同じものはないといった魅力があり、陳腐化がしにくいといった特性もある。

しかしながら、京都などに代表されるような、歴史的かつそれが集積された地域は国内においても数少ないのが現状である。そこで、地方都市の市街地において、既存の地域の歴史的資源や観光資源を掘り起こし、それぞれが小規模であっても、地域の歴史という面で連ねながら一体となった観光資源として、市街地観光として活用される事例が存在する。これは、多くの資源を見ていくことになり、単一の施設等にくらべ地域の滞在時間の延長といったより地域への経済効果の向上も期待できる。

このような観光資源は、単一の施設だけでなく、石碑や、老舗の店舗、または地域の名物など様々なものを含有しており、それを資源として生かすためには案内やガイドが必要になる。

その方法として、ホームページ等による情報発信や、案内看板の設置や案内所の設置やまちあきマップの配布等があるが、現地ガイドによるまち案内もその一つの方法と言える。

市街地観光やちあるきによる観光について調査を行うため、徳島市観光協会、とくしま観光ボランティアの会ヒアリングおよび実際のまちあるきへの取材を行った。

## 2. 徳島市について

- 概要

徳島市は徳島県の県庁所在地として、人口約 26 万人の都市である、吉野川とその支流によって作られた三角州を中心に発展した都市である。人口は平成 10 年ごろをピークにやや減少傾向にある。また江戸時代には徳島藩の城下町として栄え、徳島県の政治・経済・文化の中心都市である。

主な資源としては、阿波踊り、人形浄瑠璃、すだちなどがあり、特に 8 月のお盆に開催される阿波踊りは、約 130 万強の人を集める一大イベントとなっている。



阿波おどり会館より徳島駅方面

## 3. 徳島市におけるまちあるき観光について

- 徳島市観光協会へのヒアリング

公益社団法人徳島市観光協会は、昭和 46 年に社団法人徳島市観光協会として設立され、昭和 51 年には眉山にあるモラエス館の管理業務を開始し、平成 11 年には阿波おどり会館の管理運営を受託し、現事務所である阿波おどり会館内へ移転し、平成 26 年 4 月に公益社団法人へ移行した団体である。



阿波おどり会館

主な事業としては阿波おどり事業として、有料演舞場、無料演舞場、踊り道路等を設置、にわか連などの運営などといった 8 月に行われる阿波おどり運営や、阿波おどり会館の運営をおこなう。観光振興として観光キャンペーンの開催、モラエ

ス館の運営、観光案内所の運営、ホームページの維持管理などを行っている。

観光協会の設立は、阿波おどりの演舞場やスタンドなど、旅館協会や新聞社等個別に行っていたものを一括して買い上げ、統一的に運営していくことを契機としているとの事である。

さて、市街地観光としてのガイドに関しては、モラエス館の運営委託と、ガイド養成講座の開催が挙げられる。

モラエス館の運営委託は、協会の事業として市から委託され、直営で行っていたが人件費等見合わないこともあり、シルバー人材等を行っていたが、現在では後述する徳島観光ボランティア協会へ受付・案内業務を委託している。このことにより観光ボランティア協会は活動拠点及び活動資金を確保している。

さらに平成17年より観光ボランティア養成講座を開催し、観光ボランティアの育成を行っている。平成26年度より養成講座もボランティア協会に委託されるようになってきている。市としては観光ボランティア講座を始めた当時、ボランティアガイド100名確保を目標に始めたということである。

観光ボランティア養成講座は、座学および視察や実地など土曜日を中心に15-16回の講座が開かれる。課程を修了すると、出来るだけボランティア協会に入会してもらうようお願いしているとの事(義務ではない)。受講者はリタイヤ世代が多いとの事である。

徳島の観光の問題点としては、阿波おどりに一気に集中してしまうことや、団体旅行では阿波おどりを見た後近傍の温泉地へ行ってしまふなど宿泊の少なさなどがあり。滞在時間の延長や、観光客入込の平準化などが課題であるとのことである。また近年では東アジア諸国を中心に外国人の観光客が徐々に増えつつあるため外国語への対応も課題となっているとの事である。

- とくしま観光ボランティア協会

観光ボランティア協会は主に観光協会による観光ボランティア養成講座の修了者による観光ガイドを行っている団体である。

平成17年5月に養成講座の募集がありその修了者によって同年団体が結成された。初期はコースづくりからということで、眉山、寺町、徳島城の3コースであったとの事。

現在では、予約不要で土日に行われている「土曜まち歩き」「日曜まち歩き」のほか、下記のような5コースを予約により受け付けている。

- ・大名・蜂須賀探求の道
- ・寺町の歴史散策
- ・眉山山頂と阿波おどり体験
- ・ひょうたん島めぐりの道

・私の「ちょっといい旅」



日曜まち歩きチラシ

このほかにもリクエストに応じ柔軟に対応しているということである。

一般の観光客については無料でガイドをしており、旅行社による団体に関して 20 名未満で 2000 円それ以上は 3000 円のガイド料を受け取っている。

ヒアリング当時ガイド数は 78 名程度そのうち 20 名くらいが実働しており、全体の 4 割程度は時々ガイドをするとの事である。旅行社による有料ガイドでは 5 名くらいで対応しているということである。年間ガイドする人数としては 4-500 人程度ではないかということである。

会の運営は主に前述のモラエス館の運営委託を中心にガイド料収入等で運営しており、年間 150 万円前後ということである。



まちあるきガイド

外国語への対応としては、英語および中国語に関してそれぞれ 2-3 名程度は会員にしているということである。

今後については、県外の客を呼ぶための情報発信や、ガイドのノウハウの蓄積の

ためのDVD作成などを行っているということである。ガイドとしてのマニュアルは存在するが、マニュアルに載っていない様々な知識や話術などの向上を行ってより多くの方に利用してもらいたいということである。



阿波おどり会館内のまち歩き集合場所

- その他市街地観光について

徳島市内では観光ボランティアのほか、様々な活動や行事が行われている。NPO法人新町川を守る会によるひょうたん島クルーズが行われており20分程度のクルーズで保険料200円で行われている。



ひょうたん島クルーズ

また週末には新町川沿いに毎月最終日曜日にとくしまマルシェとして様々な商品の販売等を行っている。



とくしまマルシェ

#### 4. おわりに

徳島市における市街地観光としてのまちあるきは、徳島市の歴史的資源を掘り起こすという面で意義があることであると考えられる。まち歩きにより、観光客の選択の幅が広がることに加え、地元のガイド自体のまちへの愛着の向上などの面もあると思われる。

徳島市における観光客の平準化に寄与していくものと考えられるが、現状において、まだ周知が行きわたっていない為か、今後の利用の向上を期待していきたい。またひょうたん島クルーズをコースに組み込むなど連携を行っていけば、より理解が深まっていくものと考えられる。

またガイド育成に関してもどうしてもリタイヤ世代が講座を申し込むことが多く、一人前になるにも2-3年くらいはかかるということで、健康上の問題などで実働期間が短くなるため、継続的に新規育成するとともに、若い世代がガイドになりやすい体制も模索していく必要がある。

ヒアリングによると地域としてどうしても、阿波おどり中心にスケジュールが回ってしまうという面があるとのことで、観光客をある程度平準化しないことには、市内の宿泊施設の増加が見込めないなど、滞在時間を延長することや宿泊客を増やすのは難しくなっていると推測される。ガイドの活用についてこういった面から積極的に周知していくことが必要になるとと思われる。



寺町